



災害に備えて ～防災訓練・研修会を開催～

9月28日(日)

古牧地区自主防災連絡会主催の「防災訓練・研修会」が実施されました。「午前7時に善光寺平長野市を中心にゲリラ豪雨が降り、内水氾濫が起これ、古牧地区でも甚大な被害



土のう作り



炊き出し訓練

の可能性ある。」との想定の中、各区自主防災会対策本部と住民自治協議会に設置された対策本部間で、被害・避難者状況などを防災無線を使い報告しました。その後、各区の区長をはじめ消防団員や防災関係者約50名が、北八幡川沿いで水害を想定し土のう作りや積み方を、また古牧公民館で水害時のAR(拡張現実)ゴーグルを使って実際に自分が50cmや30cmの水深の中にいるという体験をし水の怖さを確認しました。

また、日赤奉仕団による水だけを使った災害時の炊出しを行い、参加者はカップラーメンやスナック菓子を活用したポテトサラダ、手作りのおにぎりを試食しました。参加者からは意外とおいしいねと感想があり、おかわりをする人もいて好評でした。

その後、集会室で松代復興応援実行委員会の町田修さんと西澤淑恵さんを講師にお招きし、令和元年の松代地区内で発生した豪雨災害時の経験談を中心に講演を頂きました。特

に区長の役割の大きさと「災害時の安否確認と地区内の被害状況の把握」が大切で、対策本部に情報を伝える事により支援が早くなる。さらに、避難所の開設と運営は行政ではなく、自分たちの手で何ができるのかを一番に考えて協力し行動して欲しいなど、実際の被災による体験などアドバイスを聞くことができ、今後の防災活動の参考にしていきたいと感じました。

(総務部)



防災研修会

たくさんの来場者 ～地域福祉大会を開催～

9月6日(土)「古牧地区地域福祉大会(地域福祉フェスタ)」が古牧公民館で開催され全体で約240名の参加がありました。



講演会

集会室では講演会が開かれ、サキベジ推進協議会代表理事・ほっとパル株式会社会長の小山秀一さんが「健康夫婦に訪れた突然の危機～脳出血で妻が倒れた～」と題して、突然倒れた奥様が救急搬送され退院するまでの約5か月間、小山さんが毎日奥様に手紙を書き送ったこと、その手紙が奥様の回復の大きな助けとなったことなどをご自身の実体験を基にお話しされ「大切な人に何かあっても決して諦めないでください」との言葉で締めくくられました。参加者からは「奥様への愛情がすごい。お話をお聞きしてなぜか幸せを感じました」「どんなに不幸と思うことが突然やってきても、それが当たり前、あるべき姿だととらえること、とても感動しました」との声が聞かれました。



音楽講座(音楽でリフレッシュ)

引き続き、清泉大学短期大学部の山崎浩教授による「音楽リフレッシュ～明日も笑顔でいるために～」と題した音楽講座が開かれ、講師のピアノ伴奏で昭和20年代の懐かしい歌の数々を参加者が声を合わせて歌い、約1時間をたっぷり楽しみました。

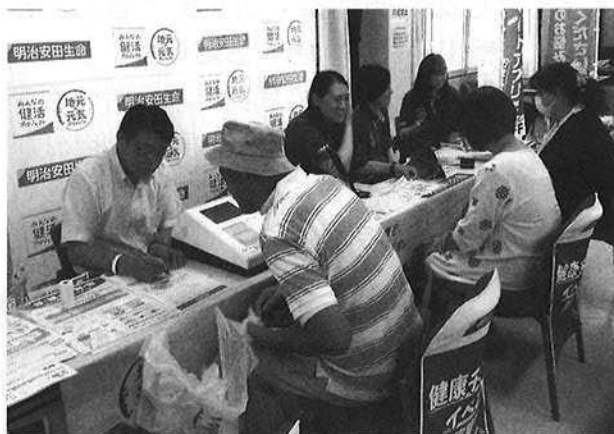
和室では、今回初めて「こども広場」と「みらいハッ! ケンブース」が作られ、抹茶を振る舞うコーナーのほか「段ボールで剣作り」「レジンキーホルダー作り」「レザークラフト教室」のコーナーが設けられ、どのコー



段ボールで剣作り

ナーも多く子ども達で賑わいました。

また、学習室では、血管年齢チェックや足圧バランス計測のコーナーなどが設けられ、ここにも多くの来場者がありました。



血管年齢チェック

調理室に設けた「カフェこまき」には約100名が来店し、駐車場で行われたサポカー・シニアカーの体験乗車にも約50名が訪れ、来場者の関心の高さが現れていました。

(福祉健康部)

色使いに苦労しました ～防火・防犯・交通安全ポスター表彰式～

9月7日(日)古牧公民館において、8月23日に行われた第44回古牧地区防火・防犯・交通安全ポスター審査会で選ばれた最優秀作品18点の入賞者への表彰式が行われました。

主催者あいさつ、来賓の祝辞の後、防火ポスターの部、交通安全ポスターの部、防犯ポスターの部、それぞれ部門で入賞した児童・生徒の皆さんへ表彰状が授与されました。

受賞者にはインタビューが行われ「表彰されて嬉しい」「色使いに苦労した」「ポスターを見て注意してくれる人が増えると良い」等々の入賞者からの声が聞かれました。

講評のなかで長野市鶴賀消防署小池署長からは、「ひとつ一つの作品がわかりやすいキャッチコピーと色使いの工夫がされていて防火・防犯・交通安全への想いが込められていると感じた。その思いを安心・安全な街づくり、青少年の健全育成につなげたい」とのお話がありました。

最後に受賞者全員で記念撮影を行い表彰式は無事に終了しました。



応募作品の防火ポスターは全作品を長野市消防局主催の審査会へ、防犯ポスターは長野県防犯協会連合会、長野県警察主催の審査会へ応募となります。

なお交通安全ポスターの入選作品のうち古牧小学校分は「けんしん古牧支店」で9月に、古牧小学校以外は「八十二銀行七瀬支店」で9月と10月に展示されました。

また、古牧地区で入選した3作品のコピーが「セブンイレブン長野西和田店」で9月に展示されました。(交通安全部)

楽しく遊べる場

～子育て支援事業～

古牧の12区では、未就学児とその家族の皆さんが楽しく遊べる場として子育て支援を行っています。各区では「子育て支援 こどもはみんなの宝物」「子育て支援ひろば 季節の手遊びや読み聞かせ」「このゆびと～まれ! おやこ広場」等々の名称で年間3回～7回開催しています。

今年度、新たな取り組みをしている五分一区をご紹介します。



五分一区では、今までの子育て支援事業にプラスし「ママのための赤ちゃん絵

本のお部屋」をマタニティのプレママ、0歳から2歳の赤ちゃん親子さんを対象として年4回予約制で始めました。

コンセプトは「子育てしている方なら、ホッとして笑顔になれる場所と時間を一番近な公民館でつくる」です。

マタニティからの読み聞かせアドバイザーが子育ての戦力になってくれる「絵本の力」を紹介します。お家でも遊べるわらべうたや手遊び、子育て相談も。

そして一番のお楽しみは、五分一区の役員の皆さまの笑顔と、美味しいお茶や手作りお菓子、そして自慢のお漬物を囲んでのおしゃべりです。一人じゃないと思えるような居場所づくりをこれからも目指していきます。

(子育て支援部)

健康で元気で ～健康づくり大会を開催～

「健康で元気な古牧をめざして！」をテーマに、福祉健康部主催の「古牧地区健康づくり大会」が9月28日（日）市営古牧体育館で開催されました。参加者は幼児から高齢者まで幅広い世代の105名。主催者側の想定を超える人数でした。

開会式の後、AC長野パルセイロ本部の男性スタッフ4名のリードで、床に並べられた色付きの輪をケンケンする反射神経を鍛えるゲームや向かい合う二人の間に置かれたサッカーボールをスタッフの合図で素早く蹴った



方が勝ちという瞬発力を養うゲームなど、頭と体を同時に使うゲームに参加者の皆さんは歓声を上げていました。

最後に、参加者全員でジャンケン大会を行い、パルセイロから提供されたユニフォームなどのグッズや試合の入場券を、そして子ども達にはパルセイロのノートがプレゼントされました。ジャンケンに勝ってゲットした賞品を負けた相手子どもさんに譲った男性に皆さんから拍手があがるなど約1時間半を楽しく事故なく無事に終えることができました。（福祉健康部）



安心・安全を願い ～交通安全住民集会を開催～

9月3日（水）西尾張部交差点、9月10日（水）東和田交差点、9月17日（水）上高田北交差点において古牧地区各区の皆さんと三陽中学校の生徒さん参加による「交通安全住民集会」が開催されました。

上高田北交差点での集会では、住民自治協議会の柴会長よりあいさつがあり、過去の悲しい交通事故を契機に毎年9月に交通量の多い交差点3か所で住民参加による集会と啓発活動が行われていることと、毎月第一水曜日の西尾張部交差点での交通安全街頭啓発活動の紹介がありました。



長野中央警察署交通第二課小林課長の講話では、古牧地区内の交通事故の傾向や事故多発箇所の紹介と注意喚起がありました。また「最近では人の出入りが激しいため戸締りには充分気を付けるように！」とのお話がありました。

その後、全員でのぼり旗を持って歩道内に立ち啓発活動を行いました。また、三陽中学

次頁へつづく

校の生徒さんが交代でマイクを手に、交差点を通過する自動車の運転手、歩行者、自転車の皆さんに向け交通安全の呼びかけを行いました。集会の終わりに西沢安全部会長より

「交通事故は気のゆるみで発生する。今後もこのような取り組みを継続させたい」との挨拶がありました。安心、安全な生活のため、事故を起こさない意識をお互いに持ち合いたいものです。
(交通安全部)

子ども達が元気よく ～少年少女スポーツ交流会～

9月7日(日)第53回古牧地区少年少女スポーツ交流会が開催されました。

前日までの雨も上がり晴天に恵まれた古牧小学校のグラウンドでは少年野球の交流試合が、西体育館ではキッズヨガの教室が行われ、それぞれ子どもたちが元気よく体を動かし汗を流しました。

野球には古牧キッズ、南部上高田少年野球、緑ヶ丘川合新田少年野球部の3チームが参加し、優勝をかけて熱い戦いが繰り広げられました。どのチームの選手もとても元気よ



くあいさつを交わし、きびきびと動く姿から日頃の鍛錬の様子を知ることができました。

一方ヨガ教室においては講師にNao Yogaの山本直子先生をお迎えし「体とともに心もリフレッシュさせましょう」というお話から、子どもでも気軽に取り組みやすくて楽しいヨガを教えていただきました。

野球に参加した選手からは「ピンチもあったけど、チームのみんなと力を合わせて乗り切ることができたのでよかった」との感想が聞かれました。
(青少年育成部)

誓い新たに ～全戦没者追悼と非戦の誓いの法要～

「古牧地区全戦没者追悼と非戦の誓い」法要が9月27日(土)に南高田区の西光寺本堂で開催されました。古牧地区住自協をはじめ古牧地区遺族会、古牧地区仏教会などの関係者約50人が参列し、戦没者の供養と戦争の悲惨さを忘れず、二度と戦争を繰り返さない「非戦の誓い」を改めて確認しました。寺境内に建てられた「追悼碑」は以前古牧小学校にあったものを昭和22年に当時のGHQの指導により現在の西光寺に移設され、途中中断も含め毎年同じ日に法要が営まれています。
(総務部)



漢学者 大澤吉兵衛先生の「歌碑」

古牧郷土史研究会 傘 木 衛

江戸時代後期から明治にかけて世の中では教養文化が盛んになりました。

古牧地区においても不便な環境の中で、その道を極めた文化人を数多く輩出しています。

その一人、大澤吉兵衛（守彦）先生は、宝暦10年（1760）五分一大澤家に生を受け幼少の頃より学を好み、成人して松代藩士となりました。その後、伊勢にて神主を修行し故郷に戻ってからは神官を務めています。

大澤先生は、地域において漢学者として歌道他の指導にも情熱を注がれました。とくに素読をもって教え、その門弟の多くは日中働いて夜間を利用し、また農閑期にも勉学に努めたと言われています。

先生の亡くなった後、多くの門弟や当時寺子屋師匠であった子息大澤祐吉氏によって大



きな歌碑が建設され、現在も大澤家の庭にその遺業を讃えています。

歌碑「ひろいあげてちくまの川のさざれ石を
君が八千代のありかずにせん」

（麻生舎守彦）

（資料：古牧誌 古牧地区の文学碑散歩 信濃の歌碑）

しゃべえんびつ



通信販売への挑戦

夏前になりますが、40年位前に一緒に仕事をしたメンバーで上山田に行ってきました。81歳～72歳までの6人（後期高齢者5人）で、昔の思い出話で盛り上がりました。昔話も終わって、テレビの音量の話になり「音がうるさい」「聞こえないのでテレビの近くで見ている」「音量の上げる機器を買ってテレビを見てる」と言うことから、通信販売の話になりました。話を聞くと高圧洗浄機・毛布・ゴルフセット・自転車のヘルメットなどの商品、JRの切符を買った、ホテルの予約をした等々、様々な物を購入していました。

5人とも最近までは、実物を見なければ買わなかったと言っていて、それが今は通信販売で買うようになった。ただ、通信販売には少し不安を持ちながら、大丈夫かなと思いながら買っていると話していました。これからもなれないスマホで教わりながら、次々と変わっていく社会に付いていくしかないな…で眠りにつきました。

（石井 徹夫）



古牧地区の世帯数と人口

令和7年10月1日現在

12,014 世帯

26,038 人

（男 12,838人

女 13,200人）

■発行所 古牧地区住民自治協議会
（電話259-8359・FAX219-1057）
（E-mail: komaki@vivid.ocn.ne.jp）

■発行者 柴 芳夫
■編集 ぷらネットこまき編集委員会
■印刷 ㈲小池印刷



HP
ご覧ください